



令和2年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 11 号
令和3年2月1日

学校教育目標

主体的に生きる人間の育成 <意欲・健康・豊かな心>

「夢」が手元にやってきた

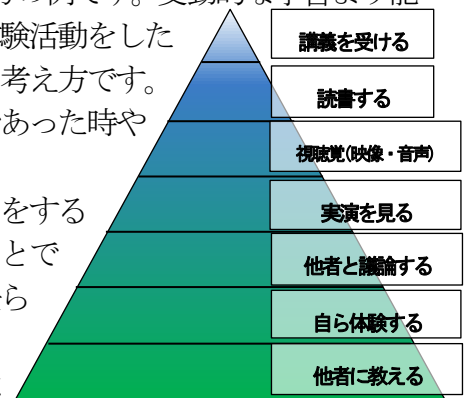
校長 富田 敦

土呂中学校の生徒一人ひとりにタブレットPCが手渡されます。

これまで土呂中には 120 台の生徒用PCが整備されてきました。このたび市教育委員会の尽力のおかげで G I G A スクール構想が実現します。市内全ての小・中学生にタブレットPCが貸与されます。その目的は、「課題に試行錯誤しながら納得解にたどり着く探究する力・他者の価値観とぶつかりながらも承認しあう感性を育てる」です。生徒一人ひとりがPCを手にして学習に取り組む時代がやってきました。私が教員になった頃に夢であったことが実現しました。しかし、手元にPCがあれば学力が向上するわけではありません。PCには子どもの学力を高める機能はついていません。PCは学力を高める魔法の箱ではないからです。中学生にも普及しているスマートフォンもPCの一つですが、これを所持しているだけでは、学力が向上しないのは周知のとおりです。私は、このPCを「思考を深めたり広げたいするためのツール」としてとらえています。

右の図は「ラーニングピラミッド」といって、「学習定着率」を表す考え方の例です。受動的な学習より能動的な学習の方が定着率が高いということを表しています。討論をしたり体験活動をしたり、ほかの人に教えたりすることで学んだ内容の定着率が高くなる、という考え方です。PCも見ただけでは定着率が高くはありません。この考え方は、私が生徒であった時や教員であった時の経験を思い返しても合点がいくものです。

これからの土呂中学校では、PCを手段として使い、生徒が能動的に学習をする授業を展開していきます。PCのよさの一つは、瞬時に情報が共有できることです。生徒が自分のPCを使って先生PCに自分の考えを送ります。先生は送られてきた意見を生徒一人ひとりが共有できるようにします。それを見て、自分の考えを広げたり、深めたりすることができます。これまで意見の交換は口頭で発表したり、紙に印刷したりして行っていましたが、聞くだけで終わったり時間がかかったりするという課題がありました。PCはこの課題を解決してくれます。また、学習の成果を発表する形式も改善します。土呂中学校では発表の時にパワーポイントで資料を作成し、大スクリーンで映し出して発表する授業がすでに定着していますが、今度は一人ひとりが持っているPCの画面に送り、より見やすく効果的な発表活動が実現します。



3年生は、2学期から総合的な学習の時間に「国際理解」をテーマとして、カンボジアやアフリカのルワンダとリアルタイムで通信し、交流しながら学習を進めています。3年生は、現地の様子や課題を直接聞き、その解決のためにはどんな策があるのか、を話し合いながら考え、その内容を再び現地に伝えました。正解のない課題に対して話し合い、よりよい答えを導き出していく、まさに今の日本の教育が求めている学習に取り組んだのです。今までは代表生徒が通信してきましたが、これからは一人ひとりが自分のPCで通信を行うことができ、一人ひとりの学びをより広く深くすることができます。

さて、悔しいお知らせを一つお伝えします。3年生 飯田 明音さんの出場が決まっていた全国中学校スケート大会が中止になりました。飯田さんは1月の大会で、昨年度の全国大会優勝タイムを上回る好記録を出していました。最高学年として臨む、中学校生活最後の全国大会では、表彰台の中央に一番近い選手でありました。1年前、全国中学校スケート大会で入賞し、土呂中学校の職員室で応援に感謝する言葉を述べた時、「来年は表彰台の中央に立てるよう頑張ります」と決意を述べてくれました。それに挑戦させてあげられないことが悔しくてなりません。飯田さんは次のように話してくれました。「全国大会がなくなってしまったのは本当に悔しいです。でも私の目標はオリンピックに何回も出て、金メダルをとることです。次の大会に向けて気持ちを切り替えます」この先10年、15年の間、飯田さんを応援することができます。私たちの夢は続きます。